

チリ経済情勢報告(2024年11月)

<概要>景気は回復している。

- 消費は改善している。
- 生産は、工業、鉱業ともに増加。企業マインドは悪化している。
- 失業率は下落している。
- 物価は上昇している。
- 貿易は黒字となっている。
- 銅価格は下落、為替はペソ安傾向、株価は下落で推移している。

先行きについては、財政・年金・税制などの国内政治動向及びウクライナ情勢等を含む世界経済情勢に留意する必要がある。

1. 経済指標

(1) GDP成長率(2024年Q3)

2024年の第3四半期(7~9月期)の実質GDP成長率は、前年同期比2.3%と、前期に引き続き増加した。また、季節調整前期比の伸び率は、0.7%と増加した。



① 需要項目別の動向

内需は前年同期比0.5%となった(寄与度0.5%)。消費は前年同期比1.8%(同1.4%)となった。内訳は、民間消費が同1.0%, 政府消費は同5.3%となった。総固定資本形成は前年同期比▲0.2%(寄与度▲0.0%)となった。内訳をみると、機械・設備投資が同1.2%, 建設・住宅投資が同▲1.1%であった。在庫品増加は寄与度▲0.9%であった。

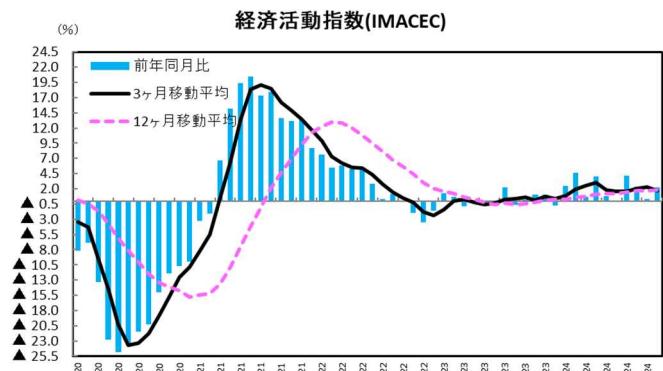
外需の寄与度は、1.8%となった。輸出は、前年同期比6.4%となった。品目別では銅が同8.8%, 鉱業品全体は同8.2%となった。財全体では同4.6%, 農林水産品は同▲0.9%となった。輸入は、同1.5%であった。

② セクター別の動向

セクター別では、銅が前年同期比4.5%となり、その他の鉱業は同6.8%となった。鉱業全体では同5.1%となった。製造業は同3.2%, 農林業は同▲8.5%, 水産業は同2.8%となった。

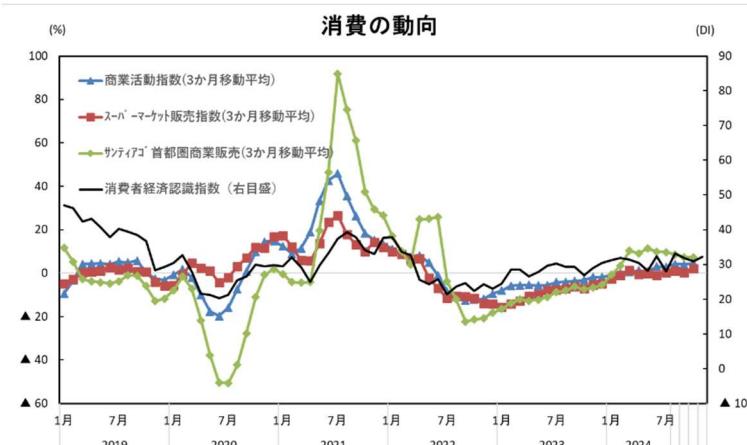
(2) 経済活動指數(IMACEC)－前年同月比2.3%－

10月のIMACECは、前年同月比2.3%（季節調整済前月比は0.4%）となった。営業日数は2日多かった。鉱業は前年同月比3.5%，鉱業以外の業種は同2.3%だった。季節調整済前月比では、鉱業は▲0.3%，非鉱業部門は0.4%となった。



(3) 消費－改善している－

- ① 10月の商業活動指數（実質、INE公表）は、前年同月比6.2%，同指數の小売業（除く車）は同4.4%となった。
- ② 10月のスーパー・マーケット販売額（実質、INE公表）は、前年同月比0.8%となった。
- ③ 10月のサンティアゴ首都圏商業販売額（チリ商工会議所公表、既存店、暫定値）は、前年同月比3.8%となった。
- ④ 11月の消費者経済認識指數(IPEC、Gfk Adimark公表)は32.3(前月差1.4)，個人の景気認識（現状）は34.3(同2.2)と、引き続き50(中立点)を下回っている。
- ⑤ 11月の新車販売台数は、25,103台（前年同月比▲2.1%）となった。

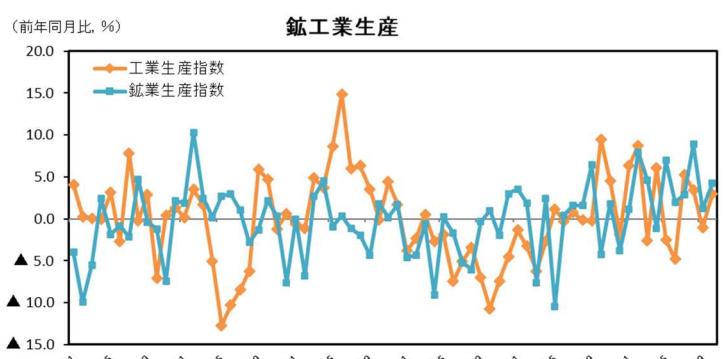


(4) 鉱工業生産、電力－工業、鉱業ともに増加－

10月の工業生産指數は、前年同月比3.0%となった。セクター別では飲料・アルコールが増加（寄与度1.4%），機械設備を除く金属製品が減少（同▲1.1%）に寄与した。

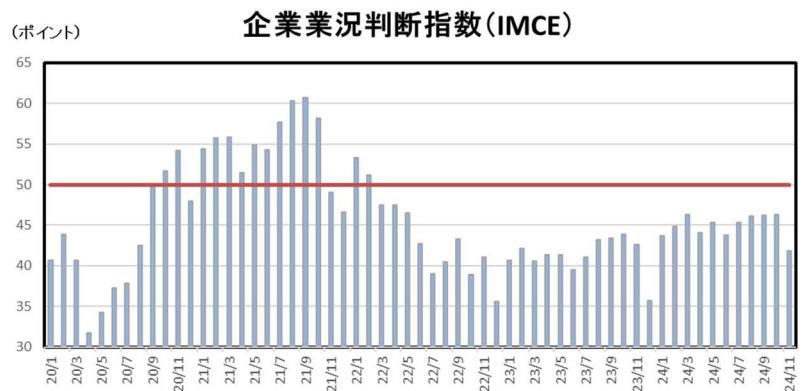
10月の鉱業生産指數は、前年同月比4.2%，銅生産量は同6.7%となった。

10月の電力指數は、前年同月比▲0.0%となった。



(5) 企業の業況判断－悪化－

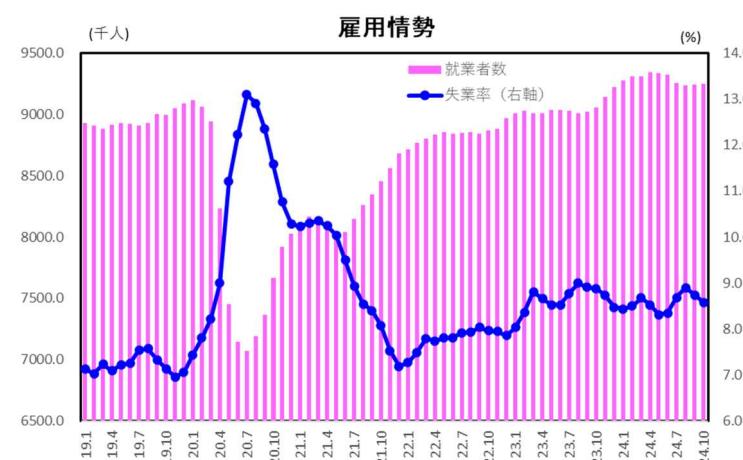
11月のIMCE(企業業況判断指数)は41.9ポイントで、前月差▲4.5ポイントとなり、33か月連続で中立点を下回った。内訳を見ると、鉱業が40.5(同▲19.4ポイント)、商業が48.7(同0.25ポイント)、製造業が43.8(同▲2.3ポイント)、建設業が30.1(同0.0ポイント)となつた。



(6) 雇用－失業率は下落－

8～10月期の失業率は8.6%（前年同期差▲0.3%）と、高い水準にある。労働力人口は181,091人増加（前年同期比1.8%）、就業者数は195,996人増加（同2.2%）し、失業者数は▲14,905人減少（同▲1.7%）している。就業者数を職業別にみると、教育が前年同期比寄与度0.3%と増加に寄与し、運輸・倉庫が同▲0.1%と減少に寄与している。

10月の賃金（速報値）は、名目は前年同月比8.2%，実質は同3.3%となつた。

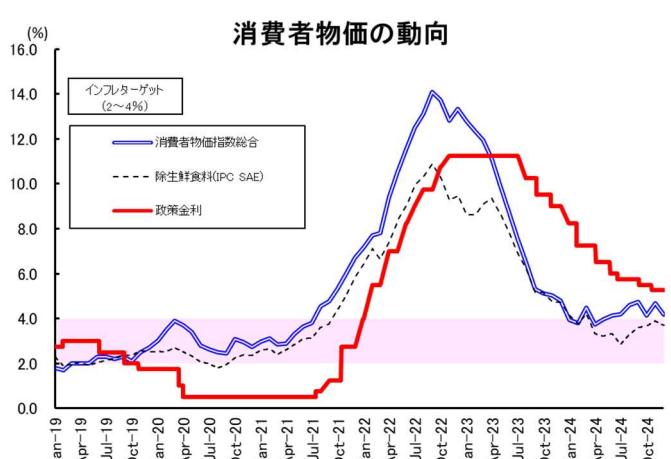


(7) 物価－上昇している－

11月の消費者物価指数（総合）は、前月比は0.3%，前年同月比は4.2%となつた。品目別に前年同月比の動きを見ると、住宅サービス(10.0%)、レストラン・ホテル(8.6%)等が上昇した。なお、生鮮・燃料を除く指数は、前月比0.5%，前年同月比3.7%であった。

中銀アンケート(12月)によるインフレ期待は、1年後：3.6%（前月3.6%），2年後：3.0%（前月3.0%）となっている。

10月の生産者物価（全産業）は、前月比3.2%，前年同月比は10.6%となつた。電気・ガス・水道（前年同月比23.4%），鉱業（同14.1%）等が上昇した。

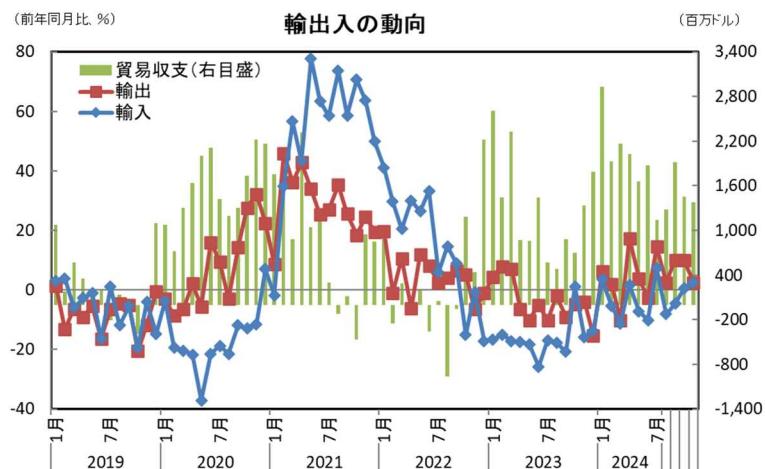


(8) 貿易－黒字となっている－

①11月の輸出額(FOB)は、79.4億ドル(前年同月比2.6%)となった。内訳を見ると、鉱業品46.8億ドル(同1.1%)(全体の59.0%)、農林水産品3.0億ドル(同12.3%)(全体の3.8%)、製造業品29.6億ドル(同4.1%)(全体の37.2%)となった。鉱業品のうち、銅は42.2億ドル(同7.1%)(鉱業品輸出額全体の90.1%)となった。

②11月の輸入額(FOB)は、65.6億ドル(前年同月比2.5%)となった。内訳(CIF)は、消費財19.7億ドル(同4.7%)、中間財37.3億ドル(同2.3%)、資本財14.0億ドル(同5.8%)となった。

③11月の貿易収支(FOB)は、13.8億ドルの黒字となった。



(9) 対日・中・韓貿易

- ①対日貿易(FOB)：11月の貿易額は、輸出額5.2億ドル(前年同月比▲22.1%)、輸入額1.8億ドル(同18.0%)、貿易総額では7.0億ドル(同▲14.6%)となった。
- ②対中貿易(FOB)：11月の貿易額は、輸出額32.6億ドル(前年同月比3.7%)、輸入額18.5億ドル(同20.2%)、貿易総額では51.1億ドル(同9.1%)となった。
- ③対韓貿易(FOB)：11月の貿易額は、輸出額3.3億ドル(前年同月比▲6.4%)、輸入額1.6億ドル(同39.5%)、貿易総額では4.9億ドル(同4.9%)となった。

2. 市場の動き

(1) 國際銅価格一下落一

11月の國際銅価格は、1ポンド4.28ドル(1日)で始まった。月末には4.03ドル(29日)と前月末比▲5.8%で終了した。

11月の銅在庫は、505,352トン(1日)で始まり、月末には462,053トン(29日)と前月末より減少した。



(2) 為替－ペソ安傾向一

11月の為替は、1ドル953ペソ(4日)で始まった。その後、月後半にかけペソ安傾向で推移し、月末は974ペソ(29日)と前月末差12.5ペソ安で終了した。



(3) 株価一下落一

11月のIPSA値(サンティアゴ主要株式指数)は、6,630ポイント(4日)で始まった。その後下落したものの、月末には6,577ポイント(29日)と、前月末比0.4%で終了した。



3. 経済トピックス(報道等情報)

(1) ベトナムとの農業に関する覚書署名: 農業省プレスリリース

11月11日及び12日、チリ農業省は、ベトナム国家主席のチリ公式訪問の機会に、同国との農業に関する協力覚書に署名した旨のプレスリリースを発出した。

●11月11日付チリ農業省プレスリリース

バレンスエラ・チリ農業大臣とベトナムのホアン・ベトナム農業・農村開発大臣は、ボリッヂ・チリ大統領とクオン・ベトナム国家主席とともに、農業に関する覚書の署名式に出席した。

バレンスエラ農業大臣は、ベトナムとの関係を強化し、貿易収支を改善することが我々の農産物輸出の課題であり、そのためにはベトナム製品に門戸を開くとともに、ワイン、サーモン、果物、そして食肉の輸出を拡大しなければならないと強調した。

この協定における協力の内容は以下のとおりである。

ア 農業政策や農村開発における協力等、両国にとって重要な分野を数多くカバーしており、農村インフラ政策、農産物加工能力、環境保護における優良事例の提供を通じて具体化される。また、動植物の健康、疾病管理、監視、害虫駆除においても協力をを行う。

イ 気候変動の影響を緩和し、農業における水利用の効率を向上させるための技術の研究開発で協力する。科学とイノベーションでは、作物改良を含む研究開発における共同プロジェクトが実施される。

ウ また、持続可能な農業の実践と農業バリューチェーンの強化を目的とした有機農業や農産物貿易における協力も行われる。国際機関への両国の参加、持続可能性や食料安全保障といった世界的な課題に取り組むための国際プログラムやプロジェクトにおいて協調する。

エ 環境に優しい農法と水と土地の効率的な利用に特に注意を払いながら、クリーンエネルギーの促進、農業生物多様性の保全、天然資源管理を通じて、持続可能な開発の視点を統合する。

バレンスエラ農業大臣は、ベトナムはアジアで最高の成長率を示している国で、我々は10年前から自由貿易協定を結んでいる。喜ばしいことに、本年12月には我々の食肉システムの検査が行われ、今後食肉産業が輸出を開始できるようになると述べた。

ベトナムはチリにとって、東南アジア諸国連合の中で第1位の貿易相手国であり、世界でも20番目の貿易相手国である。チリとベトナムは2011年に自由貿易協定に調印し、2014年に発効した。2024年上半期、両国間の貿易額は、前年比1.7%増の8億360万米ドルに達し、輸出は1億5,890万米ドル、輸入は6億4,470万米ドルであった。主な輸出品はサーモン、木材、陰極銅であった。一方、輸入は主にスマートフォン、靴類、携帯電話であった。

●11月12日付チリ農業省プレスリリース

クオン・ベトナム国家主席のチリ訪問の一環として、バレンスエラ・チリ農業大臣は、ホアン・ベトナム農業・農村開発大臣一行とともに、Garces Fruit社の農園と包装工場を訪問し、チリ産果実の輸出プロセスの発展について視察した。

バレンスエラ農業大臣は、ベトナムの農業大臣とは、豚肉等の食肉輸出製品の供給拡大、キウイフルーツの市場開放について協議を行っていると述べ、チリを生鮮果実輸出

の世界的リーダーとして維持するため、トレーサビリティの重要性、植物検疫上の安全性の確保に努めていると強調した。現在、キウイフルーツのベトナムへの輸出手続きは最終段階にある。認可プロセスを最終決定するため、2025年4月にベトナムからの技術視察の実施が合意された。

これに加え、ベトナムへのサクランボの空輸の可能性についても検討されている。現在、サクランボを輸出するためには、輸送中に低温処理を行う必要があり、空輸は不可能である。このため、航空輸送のための低温処理を回避するための一連の措置が提案されている。また、ブルーベリーについては、キウイフルーツとサクランボの空輸に関する協議が完了した時点で交渉が開始される予定である。

この点に関し、チリ農業省農牧庁(SAG)のソトマジョル副長官は、このニーズに応えた農業省職員の仕事ぶりを強調するとともに、このオンライン検査は、チリ産サクランボの発展にとって基本的なものであり、我々の製品を輸出したい国の大臣に示すことができたと述べた。

(2) 2024年第3四半期のGDP成長率：中央銀行発表

11月18日、チリ中央銀行は、2024年第3四半期のGDP成長率が前年同期比2.3%（前期比0.7%）であった旨を公表した。

チリの経済成長率は、2024年第1四半期は前年同期比2.5%、第2四半期は同1.6%であったが、直近の2024年第3四半期は同2.3%と引き続きプラスとなった。季節調整済の前期比では、0.7%のプラスとなった。

内訳で見ると、内需は前年同期比0.5%（寄与度0.5%）、外需の寄与度は1.8%で、輸出は前年同期比6.4%、輸入は同1.5%であった。内需のうち、消費は前年同期比1.8%（寄与度1.4%）、総固定資本形成は同▲0.2%（寄与度▲0.0%）、在庫品増加の寄与度は▲0.9%であった。

消費のうち、家計消費は、前年同期比1.0%の伸びを示し、非耐久財及びサービスへの支出が牽引した。前者では医薬品及び衣料品、後者では運輸及び医療サービスが目立った。政府最終消費支出は、前年同期比5.3%の増加となった。総固定資本形成は減少し、前年同期比▲0.2%の変化を記録した。このうち、特筆すべきは建設投資の減少であり、機械・設備投資の増加によってその影響は一部相殺された。貿易は、輸出と輸入の両方が増加し、GDP成長率にプラスの効果をもたらした。輸出は前年同期比6.4%の増加を示し、特に銅をはじめとする財の輸出が目立ったほか、サービスの輸出の増加も寄与した。輸入は、原油、衣料品及び食料品の増加を反映して前年同期比1.5%増加したが、機械・設備の輸入は減少した。サービスの輸入は、主に企業サービスの減少によりマイナスとなった。

セクター別に見ると、鉱業部門は、銅及び非金属鉱物が牽引し、前年同期比5.1%増加したが、鉄鉱石は減少した。銅の生産量の増加は、より高い鉱石等級と新しい濃縮プラントのスタートアップによって説明される。製造業は、前年同期比3.2%の増加を示し、食品加工及び化学・石油・ゴム・プラスチックの製造が目立った。商業は、小売業及び卸売業の増加により、前年同期比3.5%増加した。前者は、ほとんどの構成要素においてプラスとなり、後者は、家庭用品や機械・設備の売上が牽引した。運輸は、主に航空運輸と関連サービスが牽引し、前年同期比6.7%増加した。また、個人サービスは前年

同期比7.1%の伸びを記録し、このうち教育が主な増加要因となった。電気・ガス・水道・廃棄物処理は、発電及びガス供給により前年同期比▲2.0%減少した。建設は、前年同期比0.5%の微増を記録したが、これは、土木工事の増加と建築の減少が反映された結果である。

また、四半期別GDPとともに2024年第3四半期の経常収支も発表され、結果は31億4,000万米ドルの赤字であった。

(3) 災害等緊急時の通信障害対策：運輸通信省通信次官官房プレスリリース

11月17日、チリ運輸通信省通信次官官房(SUBTEL)は、災害等緊急時の通信障害対策に係るプレスリリースを発出した。

11月17日、ムニヨス運輸通信大臣、モンテス住宅都市計画大臣、アラジャ通信次官、チリ国家森林公社(CONAF)、チリ国家防災対策庁(SENAPRED)、通信事業者の関係者等が参加し、チリ政府は、森林火災をはじめとした緊急事態発生時のデジタル接続サービスの予防と保護に関する主な対策を発表した。

これらの措置は、特に、これから森林火災の季節が始まるにあたり、緊急時の接続性を強化することを目的としている。このため、緊急事態が発生し、電気通信サービスに大きな影響が生じ、特定の地域に電波が届かない状態になった場合には、移動基地局車を配備することが規定されている。この車により、デジタル接続が復旧するまでの間、被災地のユーザーにカバレッジを提供し、必要に応じて緊急警報システム(SAE)のアラートを受信したり、緊急ローミングを有効にしたりすることができる。

アラジャ通信次官は、「SUBTELでは、SENAPRED、CONAF、各通信事業者とともに、緊急時におけるデジタル接続の喪失を回避することを目的として、事前に予防策を講じてきた。本年9月には、通信インフラが設置されている場所の除草を開始し、森林火災の影響を受けないようにすることを各社に要請した。緊急事態が発生した場合、通信サービスの運用を保護することは、現場でのコネクティビティを支援し、人命を救うために不可欠である。」と述べた。

電気通信分野で採用され、既に企業と政府間で調整されている対策については、次のようなものがある。

- ①SENAPREDによる、赤、黄、緑等の各アラートに直面した場合の、各通信事業者によるサービス継続のための計画とプロトコルの起動要求。
- ②プラットフォームの適切な作動とメッセージの再送信を確認するためのSAEメッセージの分析と監視。
- ③SUBTELのNOC(Network Operation Center)と電気通信事業者間のコミュニケーションを改善するための活動の調整。
- ④現行規制(RAN、RAN Emergencia、DS60、一般電気通信法など)の適応の再確認。

(4) チリ産サーモンのオーストラリアへの初輸出：水産庁プレスリリース

11月27日、チリ水産庁は、チリ産サーモンのオーストラリアへの初輸出が行われた旨のプレスリリースを発出した。

27日未明、サンティアゴ発メルボルン行の航空便にて、国内の大手サーモン生産企業2社の冷蔵生サーモン220kgが当地大手航空会社LATAM Cargoグループによって初め

て輸出された。

この重要な功績を達成するため、チリ水産庁(Sernapesca)主導の下、チリ外務省貿易振興総局(ProChile)の支援を得て、厳格な監査プロセスが実施され、衛生管理システムと輸出製品の安全性の両面において、オーストラリア市場の厳格な要求事項への適合が確認された。そして、本年9月末、オーストラリア農林水産省(DAFF)は、チリで加工されたサーモンのオーストラリアへの輸出を正式に承認し、チリ水産庁を衛生・安全認証の権限を有する主務官庁とすることを通知した。

タピア水産庁長官は、オーストラリアへのチリ産サーモン輸出開始は、チリにとって画期的な出来事であると評価し、サーモン輸出のバリューチェーン全体に関する検査・管理・認証システムを監査する長いプロセスを経て、サーモンの初輸出が成功裏に完了したことは、サーモン養殖業界への大きな支援であると述べた。

ProChileのアルコス国際部長は、このマイルストーンは、2,600万人以上の人口を抱える市場への門戸を開くものであり、サーモン輸出にとって最も重要なものであるとともに、この製品の輸出の多様化に加え、この分野のチリ企業にとって新たな機会を創出するものであると述べた。

チリ経済省のロドリゲス首都圏州代表は、チリ産サーモンの門戸が開かれていたなかったオーストラリア市場に初めてサーモンを出荷することは、非常に重要なマイルストーンであると述べ、非常に魅力的なこの市場に輸出できる企業が増えるということは、投資が増えるということであり、雇用が増え、世界レベルでの経済のダイナミズムが生まれることになると強調した。

当地大手サーモン生産企業であるカマンチャカ社のアギレラ輸送・管理マネージャーは、当社として非常に需要の高い市場であるオーストラリアへのチリ産サーモンの初輸出に参加できたことを誇りに思うと述べ、このことは、チリの製品が持続可能で健康的なタンパク質を有しており、最も要求の厳しい市場に輸出する大きな能力と可能性を持っていることを示していると説明した。

また、別のサーモン生産企業アクアチレ社のノゲイラ製品マネージャーは、我々にとって、大西洋サケだけでなく太平洋サケも参入できるオーストラリア市場への初輸出という節目は非常に重要で、このマイルストーンと空輸を利用できることを大変嬉しく思っていると述べた。

本年、7万9000トン以上のチリ産サーモンを輸送し、輸送量の49%を占めているLATA M Cargoグループのトレス南米担当商業ディレクターは、我々は、顧客のニーズに合わせた特別なソリューションを提供することを約束しており、この実績はその証であるとし、今後も顧客に多くの機会を提供し、チリ産サーモンを世界各地へ届けられるよう努力を続けていくと述べた。

チリは現在、冷凍・冷蔵サーモンを76カ国に輸出しており、主な輸出先は米国、ブラジル、ロシア、中国、EUである。2023年のサーモン輸出額は60億米ドルを超え、本年に入ってからは41億米ドルに達している。また、現在、オーストラリアはチリ産水産物輸出先市場の一つであり、2023年の主な輸出品は、魚油(2,760トン)と冷凍二枚貝(758トン)である。

(5) 2025年予算の成立：大統領演説

11月28日、ボリッチ大統領は、テレビ演説において2025年予算の成立を発表した。

●冒頭発言

チリ議会は、2025年の予算案を可決した。この予算は、国の資源を責任を持って効率的に管理することを優先している。まず、議会において意見の相違があったにもかかわらず、本予算の通過を成功させた対話と共に基盤の模索を評価したい。見解に相違はあるものの、明らかなことは、これまでにチリが勝ち取った権利を後戻りさせたくないということである。チリ国民は、我々や我々の前の世代が既に築いてきたものをもとに、チリをより公平で安全な国へと前進させることを期待している。

●治安と緊急事態

①2025年予算の優先事項の1つは治安であり、組織犯罪に対抗する国家計画と暴力のない街の計画のために1,110億ペソ以上の財源が投入される。これにより、政権発足から2025年までの間に、カラビネロス（軍警察）及びPDI（刑事警察）が業務を遂行するために利用できる予算を12.6%増加させることになる。

②さらに、承認された予算においては、新しい最大かつ高セキュリティな刑務所の建設及び7つの新しい刑務所への電話信号妨害装置の設置を規定している。犯罪の防止、警察の強化、国境の保護、組織犯罪や麻薬取引との闘い、刑務所システムの強化などの必要な施策に必要な資源を投入することを躊躇していない。

③また、不幸にも国として直面する可能性のある緊急事態、火災、洪水、干ばつ等に関して、特に最も弱い立場にある家族に影響を及ぼす事態に対処するための資金も盛り込まれている。この点では、チリ国家防災対策庁（SENAPRED）のための財源を30%増加させ、大災害を防ぐための緊急通報システム（SAE）の近代化を実施する。チリは、自然災害のリスクが高い国であり、我々にはこれに備える義務がある。

●教育

①2025年は、教育においても進歩を遂げるであろう。我々は、教育カリキュラムを現代化させるだけでなく、より多くの学生が最良の条件で勉強できるように教育インフラ基金を強化することにより、国内の学校の条件と質を改善し続けるための方策について合意した。

②さらに、チリの学生に約束したとおり、食料奨学給費（BAES）による食費補助を4万8,000ペソに増額させる。

●公共事業

2025年予算には、アタカマ癌センター、ラス・カブラス及びトゥカペルの幼稚園及び保育園、サンティアゴ市を分断する道路への公園の造成など、公共事業に充てる3.8兆ペソも含まれている。

●健康とTEA(*Trastorno del espectro autista*)法

①公立病院における待機患者の問題を解決するため、医療資源を68%増加させる。これにより、少なくとも10万6,000件の手術を実施することを目指すが、これは、チリ政府にとっても国民にとっても優先事項である。

②さらに、保健予算は、自閉症スペクトラム障害者の機会均等と社会的包摂の権利を保証するため、TEA(*Trastorno del espectro autista*)法の実施もサポートする。これらの財源により、47の新しい学際的チームが医療サービスに設置される。

●公平性の向上

①国民介護支援制度「チレ・クイダ」では、地域支援・介護ネットワークを通じて資源を37%増加させ、自宅で専門的な介護を提供し、3万人の新たな介護者が平穏な私生活を送るための時間を持てるようとする。

②また、我々は、地方との公平性においても前進を続けている。鉱業ロイヤルティによって、2025年までに、州政府には140%、各自治体には137%の財源を追加することになる。

●科学と文化

①科学の分野では、特にグリーン水素市場への更なる投資を実施し、また、リチウム・塩湖研究所を設立する。これらは、チリの新しい持続可能な生産性開発戦略と呼ばれるものである。

②文化面では、全ての基金の財源が40%以上増額され、特にビブリオランチャやバルデイビア映画祭等に対して恒久的な資金が提供される。

(6) 中国との食肉・果物輸出に関する議定書への署名：農業省プレスリリース

12月3日、チリ農業省は、中国との食肉・果物輸出に関する議定書に署名した旨のプレスリリースを発出した。

3日、第9回チリ・ウィーク・チャイナの枠組みの中で、バン・クラベレン・チリ外務大臣、Yu中国税関総署長、フェルナンデス・チリ農業次官、Wang中国税関次官の出席の下、中国へのチリ製品の輸出を更に拡大する2つの議定書の署名式が北京市内で行われた。

この議定書は、生鮮果物を第三国の港や空港を経由して輸送するための規定であり、輸送時間を最適化し、消費者のために果物の状態を改善するものである。もう一つは、冷蔵肉と一部の冷凍副産物の輸出を拡大し、中国の消費者への食肉供給を増加させるものである。

フェルナンデス農業次官は、署名後、中国との関係を更に強化する新たな輸出規定の実現に大変満足していると述べ、これにより新鮮な果物を船便と航空便で送ることができ、品質向上と早期の到着につながり、豚肉輸出については、冷蔵肉と副産物の輸出が容易になると説明した。また、これらの協定を実現させた中国税関総署の努力に感謝を述べ、本協定は輸出を促進するだけでなく、チリと中国の信頼と友好を反映し、中国の家庭に高品質で安全な食品を提供するという我々のコミットメントを再確認するものであると強調した。

2023年、チリの農林業部門から中国への輸出総額は54億4,400万米ドルで、同部門の対世界輸出総額の30.5%を占めた。2024年1月から10月までの輸出総額は49億7,500万米ドルで、前年同期を12.8%上回っている。この伸びは主に果物の好調によるもので、サクランボ、乾燥プラム、生鮮ブルーベリーのほか、パルプや木材等の林産物も好調だった。

また、2023-2024年のシーズンの主な輸出品目はサクランボで、その91%が中国向けであった。チリ果実輸出協会(Frutas de Chile)のサクランボ委員会によると、2024-2025年のシーズンには、5kg入りの生鮮サクランボ1億2,400万箱以上が世界に輸出される見込みで、これは62万トンに相当し、チリのサクランボ輸出の記録的な数字となる。

同協会のマランビ才会長は、この議定書は我々の輸出に新たな道を開き、より良い機会を提供するための官民の重要な取組を反映したものであり、当協会としても、チリ農業

省、特に農牧庁（SAG）とともに中国税関当局との会合に積極的に参加してきたと強調し、チリは現在、サクランボのみならず、中国市場における温帯生鮮果物の主要サプライヤーでもあり、これは、この共同作業のおかげで築かれたものであると述べた。

中国への食肉輸出に関しては、これまで冷凍肉のみが輸出を許可されていたが、この協定により、冷蔵肉と一部の冷凍副産物の輸出が可能になる。今次中国訪問に同行しているチリ食肉輸出事業者協会（ChileCarne）のドミンゴス社長は、このアジアの巨大市場への食肉輸出の60%近くが豚肉であり、チリはこの種の食肉を中国に輸出することを許可された最初の国で、2019年以降、チリ産豚肉輸出の主要輸出先として位置付けられていると述べた。また、この協定により、我々の製品の市場機会を拡大し、競争力を向上させ、農村部の経済活動を発展させ続けることができるため、これは素晴らしい出来事であると付け加えた。